カミホロ小屋探訪記

企業支援部　普及連携グループ　澤田 哲則

■カミホロ小屋の建替えにCLT

天気の良い日には，林産試験場からも美しい稜線を見ることができる十勝岳連峰。その中にある3つの避難小屋のうち「上ホロカメットク山避難小屋」（標題含め「カミホロ小屋」と呼びます）が老朽化に伴い建替えされることになりました。カラマツCLT（直交集成板）が使用されるとのことで，個人的に好きな場所でもあることから，休日に見に行くことにしました。

8月11日（祝）の「山の日」に登ろうかと思っていたのですが，人気の山々が集まる登山口で駐車場が大混雑することが予想されたため，その日は石北峠から武華山（むかやま）に向かい，遅れること2日，8月13日（土）に上富良野町の凌雲閣前にある登山口から，カミホロ小屋を目指しました（**図1**参照）。

カミホロ小屋にCLTが使われると聞いたのは，大雪山系の白雲岳避難小屋が2020年に建替えられ，そこにカラマツCLTが用いられたと聞いた後のことです。ヘリコプターで建築材料等を空輸し，自然破壊を避けながらの山小屋工事には適した材料との評価が，カミホロ小屋への使用につながったのでしょう。

7月8日（金）に富良野岳（十勝岳連峰）に登った時には，既にヘリコプターが頻繁に登山口～カミホロ小屋方面を往復していましたので，高山の短い夏をめがけて旧避難小屋の解体，荷の上げ下げ，地ならしなどが進められていたものと思われます。

図1　登山口からカミホロ小屋への登山道
（国土地理院電子地図に加筆）

■火山と高山植物の山

カミホロ小屋は，上ホロカメットク山の十勝岳側の鞍部に位置します。安政火口側（北西側）は切り立った崖で（**写真1**），反対側は緑豊かな丘陵になっていて（**写真2**），多くの高山植物が育ち，岩場にはナキウサギが棲んでいます（**写真3**）。

写真1　左：十勝岳，右：上ホロカメットク山

写真2　上ホロカメットク山の南東側丘陵

写真3　岩場に棲むナキウサギ

■カミホロ小屋を探索

上ホロカメットク山は四季を通して人気の山で，カミホロ小屋は積雪期にも利用され，1階部分が雪に埋まると，2階出入口を使用します。出入口の位置を知っておくことは，登山者にとって重要な情報となります。

写真4は，小屋の建つロケーションを南側から遠望したものですが，風の吹き抜ける立地の厳しさがよくわかります。

写真4　カミホロ小屋・遠望（2022.8.13撮影）
中央奥：十勝岳
左　：安政火口縁
右　：カミホロ小屋

小屋に近づくと，次第にその全貌がわかるようになってきました（**写真5**）。以前の小屋は平屋根の2階建てだったのですが，三角屋根になったのが印象的です。これも白雲岳避難小屋に倣った形なのかと思います。

写真5　カミホロ小屋・外観（2022.8.13撮影）

写真6　カミホロ小屋の外観概要
（2022.8.13撮影）

写真6を見るとわかるように，基礎にはプレキャストコンクリートが用いられ，土台にはカラマツ集成材の防腐土台，壁には3層3プライのカラマツCLT，1～2階のつなぎ部分には四周に8プライのカラマツ集成材が回されています。土台と壁のCLT，集成材とCLTの固定には鋼板と多数のビスが使われています。夏季でも気温の上下が激しく，天候も急変する場所での施工なので，乾式工法が主になっているのだと思います。この外観からすると，この後，ガルバリウム鋼板などで外装されるのでしょう。白雲岳避難小屋がベンガラ色だったので，こちらはどんな色で仕上げられるのか楽しみです。公表された工期は2022年5月31日～10月31日となっていますが，雪が深くなる前に，もう一度，屋根の色，壁の色，出入口の位置を確かめに行ってみたいと思います。

中高層建築物での利用が注目されるCLTですが，需要は少ないにしても，山小屋のような特殊な建築条件の建物においては，使用に適した材料だと感じました。新型コロナウイルスの影響で，登山をする人も増えていると実感する昨今ですので，このような情報を少しでも多くの方々に発信できればと思っています。

※掲載した写真は，2022年8月13日現在のものです。
※避難小屋は緊急時の使用が原則です。